JTU 青年部ニュース その5

日教組青年部　２００９年　３月２６日

文責　日教組青年部長　江藤創平
メールアドレス：eto_sohei@jtu-net.or.jp

日教組青年部 活動者3ブロック学習会

●報告

１０月開催の予定が延期となり、年度末の忙しい時期の開催となりました。参加者のみなさん、参加しようと思っていたみなさん、申し訳ありませんでした。Ｂブロック（北陸・東海・近畿）は、３月７日～８日に京都府城陽市にて開催し、２０人の参加がありました。Ｃブロック（中国・四国・九州）は、３月１４日～１５日に福岡市で開催し、３７人の参加がありました。

１日目は、各単組の１年間のとりくみを交流するとともに、振り返って次年度につなげる議論を、２日目には、組織拡大についての提言を議論しました。

Ｂブロック

・子ども向け番組のスポンサーになる
・ネットで署名、情報収集できるようにする
・タウンミーティング（対話集会）等ひらく
・保護者、子どもの要求を吸い上げ、交渉する
・ＣＭづくりをする
・地域で子どもの居場所づくりをする
・キャラバン（出前講座、実験教室）などを行う
・日教組主催の子どもが出場できるコンクール、大会をひらく
・地域ガイドを行う
・自分のスタンス、到達地点を確認する作業を行う
・お土産を渡しながら、学習会、組合行司の報告を行う
・署名などでも、とりくんだ結果のイメージを分かりやすく説明する
・仕事上で信頼関係をつくり、その上で声かけにつなげる。

Ｃブロック

・保護者と一緒に語る会を開いて、世論をつくっていく
・加入声かけの（個別の）年間計画をつくる
・年休完全取得のとりくみ提起（少数職種の年休状況の把握も）
・職場の中で対話できる場や時間を設定する
・ユーモアのある活動、職場づくりをする
・権利を守るため、きちんと義務を果たす
・組合のつながりで、助け合う姿を見せる（部活の顧問補佐など）

・声をあげられない人の立場にたってものを考えるように啓発していく

これらの提言を、どのように単組や支部の運動として形にしていくのかを今後検討したいと思います。

議論の中で、今の青年のニーズは、飲み会などの交流会より、学習会にあるのではないか、若い人たちは精神論や運動論より、いかに自分自身にメリットがあるかという部分を示さないと動かないのでは、など現状分析がなされていました。

多くの青年と対話をすること、多くの立場の状況を知ることを原点としたとりくみを、単組・日教組青年部で考えていく必要があります。

また、「あの人は意識が高い」とか、逆に「低い」とよく言いますね。議論七日にも少し出てきたのですけれども、人それぞれイメージしている状態が違うと思います。単組や支部の青年部の課題にも、「意識の低い青年部員にどうやって参加させるか」なんてよく見かけます。

何に対する「意識」なのか、「低い」とはどの状態なのか、「低く」なってしまったその青年部員の背景には何があるのかなどを議論してみる必要があるなぁと感じました。みなさんの単組青年部でも、何かの機会にそんな議論をしてみてはいかがでしょうか。

●今後の日程

あっというまの０８年度だったように思います。年末のリーマンショックの余波があまりにも大きく、社会のあり方の根底を問われている中で、わたしたちがどのようなメッセージを出していくかも重要なことだと思います。

さて、年度が変わって役員体制も変わる単組青年部も多いかと思います。とりくみを振り返りながら、方向性を確認するための「青年運動研究交流集会（全国青年部長会)」を開催します。４月２５日（土）～２６日（日）です。そこでは、年間のスケジュール確認や、総会に向けての議論、青年教育実践交流集会（トモケン）のブロック打ち合わせなども行う予定ですので、ぜひとも青年部長のみなさんに参加いただきたいと思います。(青年部のＣＭ作りもやってみようかとも考えています。)

●月刊ＪＴＵ・クリアファイル・わたしたちの青年部運動

月刊ＪＴＵの４月号は大部分のページに青年部が登場します。ぜひともご覧になった上で、周りの教職員の方々に紹介してください。また、クリアファイルは、奈良教組の田窪さんのデザインをもとにして作ったものです。声かけ総アクション時に、青年が中心となってとりくめるように、わたしたちの青年部運動第３４集と合わせて活用ください。

（わたしたちの青年部運動第３４集は購読をお願いします！）